

京都市における散策実態行動の特性

Characteristics of promenade reality behaviors in Kyoto city

和田章仁*・材野博司**

Akihiro WADA, Hiroshi ZAINO

表-1 調査の内容

調査項目	内 容
個人属性	・性別、年齢、職業 ・居住地（区および元学区）
散策頻度	・散策を行う、行わない ・散策頻度
散策行動	・以下の3種類に分類 「いつもと同じコース」 「とくに定まっていない」 「たまに行くとおきコース」 ・上記3種類別の理由、時間、散策先
散策コース	・自由記述

1. はじめに

わが国においては高齢化の急激な進行や週休2日制の導入などによる余暇時間の増大によって、国民のニーズの多様化・高度化に拍車がかかり、都市構造の変化や国民のライフスタイルに変化が生じてきている。このようなことから、生活に対するゆとりやうるおい、あるいは都市活動に対する気分転換や快適性が求められてきている。

このような都市活動の快適性を確保する方策のひとつに「散策」があげられよう。この散策は行き先や道筋、あるいは時間といった制約に縛られない自由な行動（散策行動）として都市生活の緊張をときほぐし、うれしさや楽しさの創出とともに、人々の健康増進にも寄与し、積極的に都市に生きるよこびを感じさせるものである。

本稿は真に生活の豊かさを楽しめるとともに、都市環境のアメニティ形成に貢献する散策空間づくりの在り方を探ろうとするものであるが、もとより、そうした概念が確立しているわけではない¹⁾。このため、ここでは京都市民の散策行動に着目し、散策行動を散策距離や散策時間などのあらゆる角度から検討することによりその実態を把握し、散策空間の整備のための基準づくりに向けての基礎資料とするものである。

2. 調査の概要

この散策行動の把握については、人の動きの実態を把握する調査としてパーソントリップ調査などが主なものとしてあげられるが、これらは目的の明確な行動を主な対象としており、目的が明確でない散策行動の実態を既存のデータから知することは困難であることから、散策についてのアンケート調査を実施した。

調査は1993年9月に京都市全域において、20才以上の成人を対象として、訪問配布・郵送回収方式により行った。表-1は調査の内容を示したものである。総配布数は1,250戸（1戸当り3票配付したので3,750票）であり、同回収数は207戸であった。そのうち有効回収数は202戸（有効回収率16.2%）で、集計可能な有効票数は400票であった。

3. 散策行動の実態

(1) 散策の発生状況

散策アンケート調査の結果、回答者の約8割が年1回以上散策していると答えている。また、散策し

キーワード：観光・余暇、空間設計、歩行者交通行動

* 正会員 工修 京都工芸繊維大学大学院工学科学研究科

(〒606 京都市左京区松ヶ崎横土町 TEL:724-7645,

FAX:724-7602)

** 非会員 工博 京都工芸繊維大学教授 造形工学科

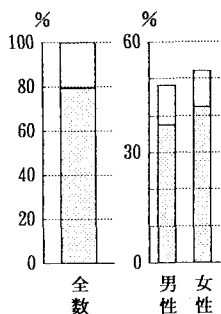


図-1 散策者の割合

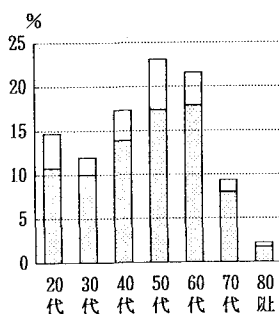


図-2 年齢別の散策者

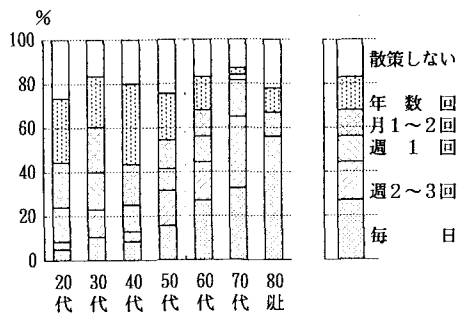


図-5 年齢別の散策頻度

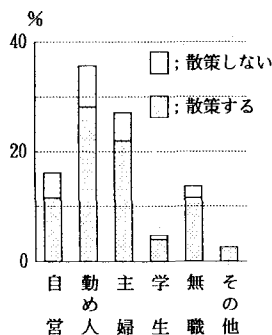


図-3 職業別の散策者

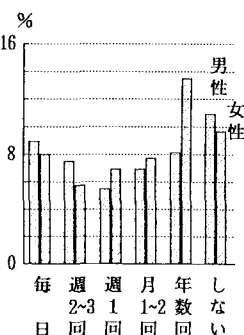


図-4 男女別の散策頻度

ている人の男女別では、女性の割合が多い（図-1参照）。散策を行った人の年齢構成は、18%の60才代を中心に50才代、40才代と続いており、中高年の割合が多くなっている。また、散策する人とならない人の割合は70才代30才代がそれぞれ87、83%と高いが、50才代は75%と低くなっている（図-2参照）。職業別の散策者は勤め人の28%を最高に、主婦、自営が続いている。散策する人とならない人の割合はその他が100%で、学生、無職が共に84%と比較的時間に余裕のある人々が高率である反面、自営は71%と低率である（図-3参照）。

一方、男女別の散策頻度は女性の「年数回」が約14%と高い率の反面、男性の「週1回」が5.5%と低くなっている。すなわち、「ほとんど毎日」、「週2~3回」といった多頻度については男性が多く、頻度が少なくなるにしたがって女性が多くなっている（図-4参照）。また、年齢別の散策頻度は、概ね年齢が上がるにしたがって多頻度の割合が大きく、少ない頻度の割合は小さい。この内、40才代につい

てはこれらの傾向から異っており、社会的、家庭的にも責任ある時期で、時間的余裕が無い年代であることが推測されよう（図-5参照）。

これらの散策発生状況は、京都市都市計画局が実施した歩行者・自転車アンケート調査²⁾の結果と概ね合致している³⁾。

(2) 散策行動のコース選択

散策を行う場合に、人はそれぞれ異なった考えによってコースどりをしており、アンケートから「いつもと同じコース」、「とくに定まっていない」、「たまに行くとおきコース」の3つのコースに分けられる。これらを分かりやすいように『いつものコース』、『きまぐれコース』および『とっておきコース』に表示することとする。実態調査結果によるこれらの3つのタイプの発生比率は、順に23%、63%および14%であった。

散策タイプ別の年齢構成による特性は、『いつものコース』では50、60才代を中心とした年齢層が高く、若年齢層になるほど段階的に低くなっている。一方、『きまぐれコース』では70、80才代の年齢層で低くなっているものの、若年齢層から中高年齢層まではほぼ同じ割合を示している。これは中高年齢層の保守性、若年齢層の改革性を表しているといえよう（図-6参照）。また、散策タイプ別の散策頻度の特性は、『いつものコース』では「ほとんど毎日」と「週2~3回」で70%弱を占めている。一方、『きまぐれコース』では逆に「年数回」、「月1~2回」で60%強を占めており、定まったコースを散策している人は散策頻度が高く、コースが定まっていない

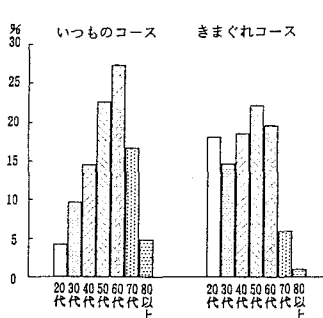


図-6 散策タイプ別の年齢構成

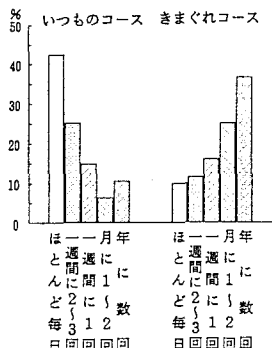


図-7 散策タイプ別の散策頻度

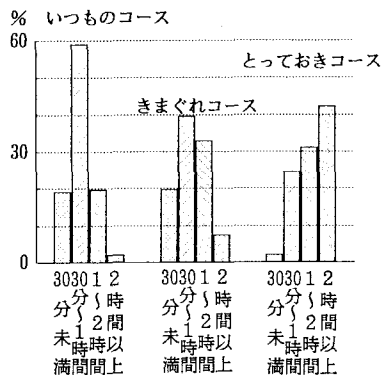


図-8 散策タイプ別の散策時間

人は散策頻度が低いことがわかる(図-7参照)。

(3) タイプ別の散策特性

散策タイプ別の散策時間の特性は、『いつものコース』では「30分～1時間」が約60%を占めており、『きまぐれコース』では「30分～1時間」と「1～2時間」で73%、『とっておきのコース』では「1～2時間」と「2時間以上」で同じく73%であり、共に高い比率を占めている。このことは、いつもの定まったコースを散策する場合は30分以上1時間未満ですませているが、気に入ったとっておきのコースを散策する場合は長い時間をかけていることがわかる(図-8参照)。

散策タイプ別の散策理由の特性は、『いつものコース』では「健康のため」が過半数を占めている。また、『きまぐれコース』では「気分をcaえる」が33%と一番の高率で、「健康のため」が28%と続いている。逆に「ひまつぶし」が10%と3つのタイプのうちでは高くなっている。『とっておきのコース』では「気分をcaえる」、「健康のため」、「楽しみのため」の3項目で約90%を占めており、「ひまつぶし」はなかった。これらから、いつも定まったコースを散策するのは「健康のため」が大部分であることがわかった。また、気まぐれにコースを選んで散策を行う場合は、「ひまつぶし」や「理由なし」といった消極的な理由の比率が比較的高く、目的を持たない散策が目立っている。一方、気に入ったとっておきのコースを散策する場合は、「気分をcaえる」、「健康のため」、「楽しみのため」の合計

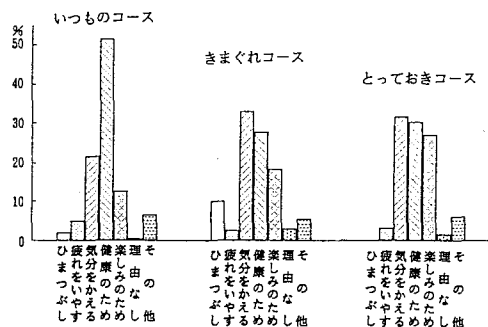


図-9 散策タイプ別の散策理由

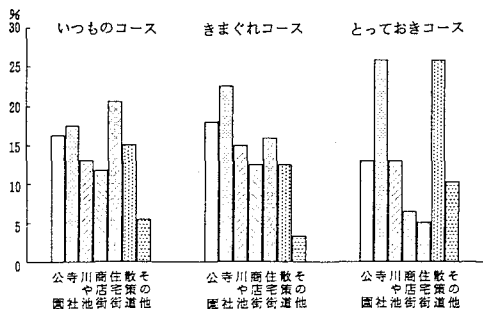


図-10 散策タイプ別の散策先

がほとんどを占めていることから、散策に対して積極的な理由を持って行っていることがわかった(図-9参照)。

散策タイプ別の散策先の特性は、『いつものコース』では「住宅街」が21%と比較的高いが、他は似たりよったりである。また、『きまぐれコース』では「寺社」が23%と比較的高いが、他はほぼ同率で

ある。一方、『とっておきのコース』は「寺社」と「散策道」がそれぞれ26%と高率を示しているが、逆に「商店街」と「住宅街」が低率である。これから、いつも定まったコースを散策する人は住宅街といった身近な場所を選んでいるものの、気まぐれにコースをとっている人と同様にあまり散策先を選んではないと思われる。一方、気に入ったとっておきのコースを散策する場合は、散策を楽しむための寺院・神社および散策道といった質の高い散策先が選ばれ、身近な場所である商店街や住宅街は敬遠されている（図-10参照）。

4. 散策時間と散策距離

(1) 散策距離

散策距離については散策コースが明記されているものについて、国土地理院の2万5千分の1の地図上に復元して、キルビメータにより計測した。

ここでは、距離と時間の関係を把握することから、乗り物を利用した散策を除いて、全て徒歩によるもので集計した。これにより、2時間以上要した散策は全て乗り物を利用していることから集計には入っていない。集計結果は時間が長くなるにしたがって距離も伸びており、時間区分毎の平均散策距離もそれを示している（表-2参照）。また、全体の平均距離は3.64kmであった。

(2) 散策時間と散策速度

散策時間の集計⁴⁾に対しては、アンケートの質問に幅をもたせていたことから、散策時間をそれぞれの半分と考え、次のように仮定した。

①30分未満；15分②30分～1時間未満；45分③1時間～2時間未満；1時間30分④2時間以上；3時間（アンケート記述時間の平均値）

これにより、表-2の数値から検算すると平均速度は①；7.6km/時、②；4.7km/時、③；3.1km/時となる。しかし、①の速度はあまりにも速すぎることから、②の4.7km/時と同じ速度とすると、①の散策時間は24分と仮定できる。

このことから、散策者の平均像は3.6kmの距離を4.0km/時の速度で55分かけて歩いているという結果が得られた。

表-2 距離と時間の関係

	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満
1.0 km	2	0	0
1.5 km	2	3	1
2.0 km	4	4	0
2.5 km	2	7	1
3.0 km	1	9	3
3.5 km	0	4	3
4.0 km	0	1	1
4.5 km	0	9	2
5.0 km	0	3	4
5.5 km	0	2	2
6.0 km	0	1	1
6.5 km	0	1	3
7.0 km～	0	0	2
計	11	44	23
平均	1.9km	3.5km	4.7km

5. まとめ

快適な散策空間の整備については様々な角度からの研究・検討が必要であるが、本稿ではそのひとつである散策行動からのアプローチを試みたものである。その結果、一つは散策のコース選択とおして散策行動の特性が明らかになった。二点目として散策距離と時間の関係から、平均的な散策速度を知ることができた。

今後は、これらの結果を検証するため、他都市調査および行動追跡調査などを行う必要があると考えている。

参考文献

- 1) 高口恭行：散策空間の研究，京都大学校論文，1973.
- 2) 京都市都市計画局：京都市歩行者・自転車交通計画調査報告書，1992.
- 3) 和田章仁：京都市民の散策行動からみた散策空間，日本建築学会大会学術講演梗概集，F/pp. 103~104, 1993.
- 4) 和田章仁・村野博司：歩行者空間の整備実態に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，F/pp. 209~210, 1994.